Ⅰ　岡山型学習指導のスタンダードについて

教育の営みは、知・徳・体を兼ね備え、将来を担う人材を育んでいくことであり、各学校では、様々な教育実践に取り組んでいただいているところです。

特に知の根幹をなす学力については、児童生徒に学ぶ楽しさや分かる喜びを感じさせながら、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うなど、確かな学力を育成することが大切です。このような確かな学力を土台として、児童生徒一人一人が意欲的に個性や可能性を伸ばしていくことが求められます。

児童生徒に「確かな学力」を習得させる場、それは何といっても日々の授業です。とりわけ、①「基礎的・基本的な学習内容の定着」と、②「自分で考え、表現する活動の充実」により、児童生徒が、「分かる・できる喜び」「考える楽しさ」が実感できる授業を進めることが大切です。

そのような授業を行うための基礎・基本を「授業5（ファイブ）」として示し、授業で身に付けた力を確かなものにするため、定期的に学習の定着を確認するテストの活用や、学習基盤を確立するための規律など、学習指導全体を通じ押さえるべきポイントを「岡山型学習指導のスタンダード」としてまとめました。

教科、学年、学習内容等により、それぞれの授業は異なりますが、基礎・基本となる点は同じであると考えます。日々の授業づくりにおいて、この「岡山型学習指導のスタンダード」を推進し、児童生徒に確かな学力を身に付けさせる授業を共につくりあげていきましょう。

Ⅱ　３つの視点と７つのポイント

〈視点１〉児童生徒の学力・学習状況の把握と課題の明確化を！

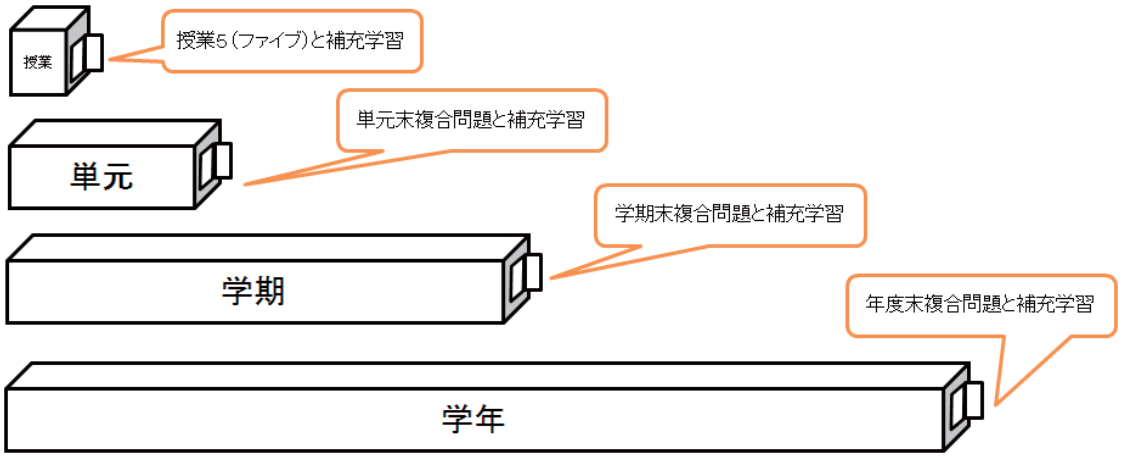
Point 1　全国・岡山県の学力・学習状況調査や学習到達度確認テスト等、多様な資料やデータに基づき、児童生徒の学力の実態を分析・把握し、全教職員で課題の共有を！

〈視点２〉課題改善を図る徹底指導の連続を！

Point 2　一単位時間、各単元、各学期、各学年で、【練習問題、単元末・学期末・年度末複合問題】の実施を！

Point 3　特に、一単位時間の授業で、【授業５（ファイブ）】に基づいた指導を！

Point 4　授業の中で、机間指導の工夫等【指導の基礎・基本】に基づいた指導を！



〈視点３〉学習基盤の確立を！

Point 5　学習基盤を確立するための規律【学びのかなめ（学習用具・時間・姿勢・話し方・挨拶・整頓・掃除）】の指導の徹底を！

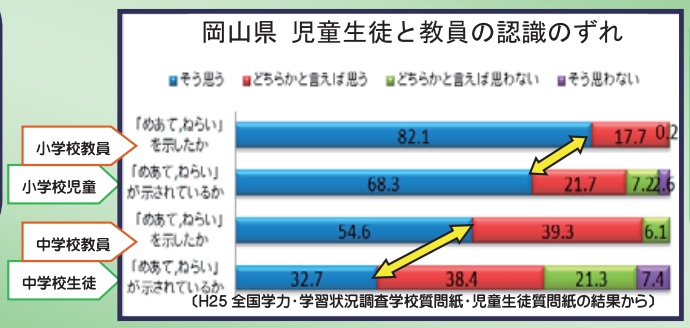
Point 6　児童生徒の【出番】と【居場所】を意識した、学び合う学習集団づくりを！

Point 7　授業外での学習（家庭学習と補充学習）の充実からの学習習慣化を！

Ⅲ　一単位時間の授業５（ファイブ）

授業で育てるおかやまっ子

教員はめあてを示しているつもりでも、児童生徒は？（小学校で 13.8%、中学校で 21.9%のずれがあります。）



教員と児童生徒の認識の**ずれ**はどこから生まれてくるのでしょうか？同様の結果が**「振り返りをしているかどうか」**においても出ています。

授業で必ずめあて（目標）を示し、その目標達成度を確認しよう！

「授業５（ファイブ）」で、１時間の授業中に「分かる・できる喜び」「考える楽しさ」を実感させよう！

①　めあて（目標）を示す。

児童生徒が１時間の学習のゴールを理解すること、児童生徒自身が明確な課題意識をもつことが主体的な学びにつながります。

②　自分で考え表現する時間を確保する。

ただし、目標に応じて、活動内容や時間配分の見極めが大切です。

③　目標の達成度を確認する。

児童生徒一人一人の目標の達成状況を見届け、個に応じた指導を行うことで、確かな学力を付ける授業となります。

④　学習内容をまとめる。

目標に対応した学習内容を整理し、「きちんと板書」「ノート指導の徹底」により、押さえます。

⑤　授業の振り返りをする。

児童生徒が自分の学びの手応えや意義を感じることは次の学習への意欲になります。

一単位時間の授業５（ファイブ）

①めあて（目標）を示す

Basic

○児童生徒が、本時で何をどのように学ぶのかが分かるようにします。

これ大切

本時で児童生徒に付ける知識・技能や思考力・判断力・表現力は何か、学ぶ意欲をどう高めていくかを明確にすることが、授業づくりの第一歩です。目標を達成した児童生徒の姿を具体的にイメージすることが大切です。

HINT!

○児童生徒が意識できる「めあて」とは

＊児童生徒に、どうなれば「分かった」「できた」と言えるのかを具体的に示します。

○既習事項等の活用

＊児童生徒が、解決する課題が分かり、既習事項などを想起して、解決方法の見当をつけるなど、学習の見通しをもたせます。

この時間を確保するため、一単位時間のタイムマネジメントが重要です。

導入　　展開

②自分で考え、表現する時間を確保する

Basic

○一人一人の児童生徒が、めあてに対する自分の考えをもち、その考えを表現することができる方法を示します。

○もった考えを交流することで、考えを深めたり広げたりすることができるようにします。

一緒に考えると楽しいね

これ大切

児童生徒一人一人に、「伝えたい、他の人の考えを聞きたい」と思える「自分の考え」をもたせることが重要です。

グループ学習においても必ず自分の考えをもって話し合いに臨むようにさせることが大切です。

HINT!

○自分の考えをもつために

＊児童生徒が、めあてに対する自分の考えをもつために、教員は思考・表現の手がかりとなるものを示したり、準備したりします。

・考える視点の提示
・ワークシートの工夫
・資料等の量的・質的充実　など

HINT!

○発表して終わりにしないために

＊グループ学習・ペア学習を行う場合は、話し合うこと自体を目的にするのではなく、互いの考えを交流することで児童生徒に身に付けさせたい力を意図した学習活動を取り入れます。

・相手に説明する　　・相手を説得する
・互いの考えを比べる　　・発想を広げる　など

③目標の達成度を確認する

Basic

○児童生徒一人一人が本時の目標が達成されているかどうかを把握し、達成状況に合わせた個別指導を行います。

これ大切

めあて（目標）が達成されているかの見届けと、習得状況に応じた個別指導を行うことで、学習内容の定着を図ります。

HINT!

○めあて（目標）の達成度の確認のための練習問題

＊学習したことを生かして練習問題を解く、自分の言葉で説明するなどの機会を本時の中で確保します。

・ねらいの達成が不十分な児童生徒には個別指導を行います。

・自主的に取り組める発展問題も用意しておきます。

○ノートから分かる目標の達成度

＊ノートに何をどのように表現させるかを考えて授業に臨むことで、その観点から個々の達成状況を評価することができます。

補充学習の充実

○授業とつながる家庭学習の課題設定

＊１時間の授業の中で学習内容が定着しなかった児童生徒には、基礎学力定着のため授業外での補充的な学習や家庭学習等を工夫しましょう。

終末

④学習内容をまとめる

Basic

○本時で何を学んだのかが分かるように整理します。

これ大切

本時の学習で何を学んだのかを整理することで、学習内容の定着を図ることが大切です。

HINT!

○自分の考えをもつために

＊本時の「めあて」と対応した「学習のまとめ」を行います。

・その時間の学習内容を整理してまとめるのは教員の役目です。

⑤授業の振り返りをする

Basic

○「分かったこと、できたこと、考えたこと」などを自分の言葉で書かせます。

これ大切

本時の学習を振り返り、自己の変容や学び方のよさを実感させることは、学習内容の確実な定着を促し学習意欲の向上へもつながります。

HINT!

○振り返りとは？

＊向上したことや学び方のよさを児童生徒が自覚できるような「振り返り」を工夫します。

・振り返りのためのカードやモデルを提示する。

・できたことや分かったことなどについて書く。

・どのような発見や気付きがあったか、どのように考えが変わったかなどについて書く。

・まだ、はっきりしないことや次に確かめたいことなどについて書く。

Ⅳ　指導の基礎・基本

1 意図的な机間指導

Basic　明確な意図をもって児童生徒一人一人の状況やグループ活動の様子を把握し、その後の指導に生かします。

これ大切

○学習活動の全体像を見取る
発問や指示をした後、指示どおりにできているかどうか、発問は理解できたかなど、その時の反応や、学級全体の状況を把握し、必要に応じて個別指導や全体指導を行います。

○児童生徒の考えや活動を把握して次の展開に生かす
学習課題に対して、一人一人の児童生徒やグループがどのような考えをもっているのか、活動をしているのか等を把握して、次の学習活動や展開につなげることが大切です。

○学習内容の個別支援をする
学習課題に対する児童生徒の学習状況を把握し、個別に支援をします。つまずいている児童生徒ばかりでなく、理解が早い児童生徒やグループに対しても状況に応じた支援が必要です。

○児童生徒を励ます
机間指導の中で、一人一人への肯定的な声かけをすることで、児童生徒のやる気を育てることができます。

HINT!

○指導のねらいに応じて声の大きさを工夫する
個別指導は小さな声で行うのが基本ですが、他の児童生徒のヒントにしたり、その子のよさを広めたりしたい場合は、学級全体に聞こえるような大きな声で話すなど、ねらいに応じて声の大きさを工夫してみましょう。

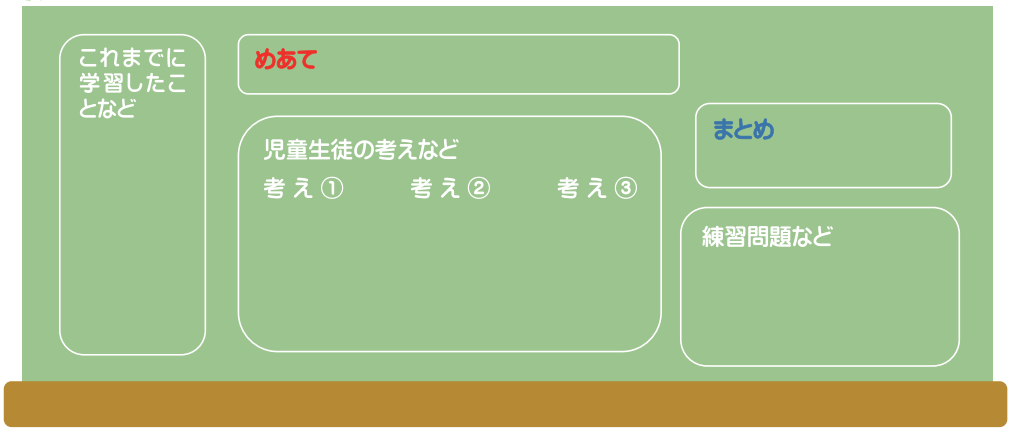
○順番を考える
意図に応じ、限られた時間の中で、どのように回るかを事前に計画を考えておきましょう。

2 板書の構造化

Basic　学びの道筋が分かるように構成を考えて、学習のめあて、児童生徒の考え、めあてに対応したまとめを板書します。

これ大切

学びの道筋を分かりやすく示すには、「めあて」がどのような学習を通して「まとめ」につながったかを、構造的に板書することが大切です。

HINT!

○板書が児童生徒のノートにつながります。